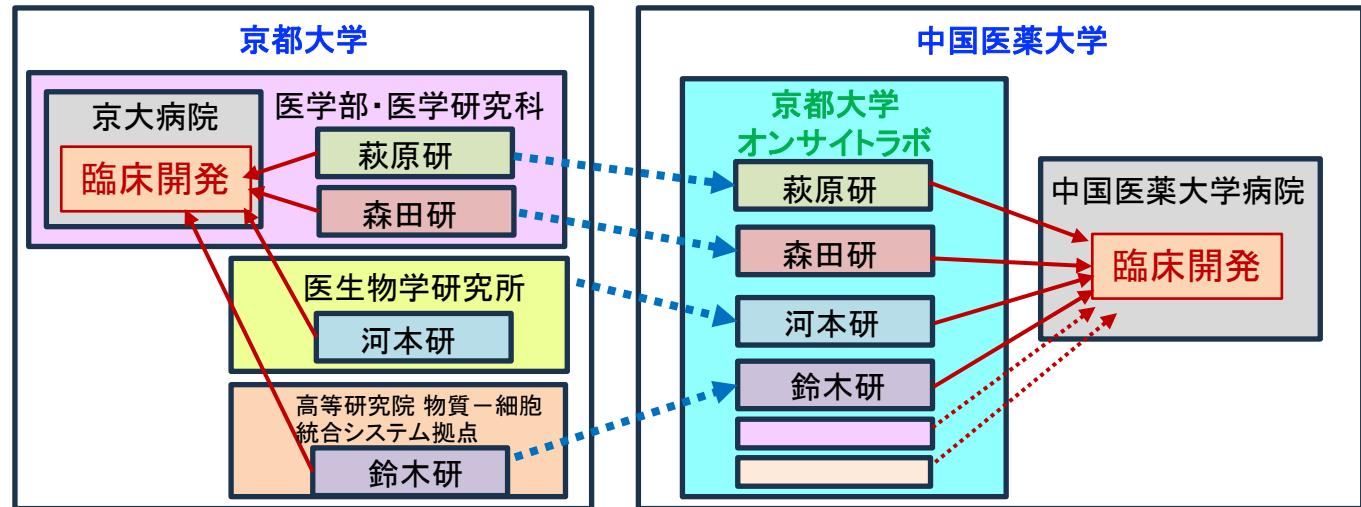


基本情報

- ◆ 認定年度: 2024年
 - ◆ 設置時期: 2024(令和6)年10月
 - ◆ 実施部局: 医学部・医学研究科、医生物学研究所、高等研究院 物質一細胞統合システム拠点
 - ◆ 相手方機関: 中国医薬大学
 - ◆ 設置場所: 台湾 台中市
 - ◆ 設置タイプ: アウトバウンド型
 - ◆ 設置目的: 各種臨床試験の促進・臨床応用に向けた新規戦略の共同開発
 - ◆ 教育研究活動内容: 京大発の薬剤や技術を用いた臨床試験を、オンラインラボを介して中国医薬大学に移管し、臨床試験を実施する。オンラインラボでは、単に技術移管するにとどまらず、さらなる技術開発や、対象疾患を拡大するための非臨床試験などの共同研究も進めること。

活動概要

- ・場所(建物とその中のラボスペース:636m²)は準備されている(右図)。
 - ・現在活動実績のある3チームと新規参加の1チームの計4チームの参加が計画されている。
 - ・今後もオンラインラボの新規参入は可能。
 - ・全体を代表して管理する常駐PIを京都大学と中国医薬大学のクロスアポインツメントで雇用する。



期待される波及効果

- ・京大発の薬剤や技術を用いた臨床試験を中国医薬大学病院で施行することができる。
 - ・臨床試験の参加症例数を効率よく増やすことができ、さらにグローバルな開発の橋頭堡になる。
 - ・中国医薬大学にとっても京大のマテリアルや技術をベースにした共同開発ができるメリットがある。
 - ・研究交流により学際的な発展が期待できる。

水滸キャンパス C1/C2ビル



共同研究棟

产学連携棟



京大のオンラインラボとして予定されているスペース(636m²)

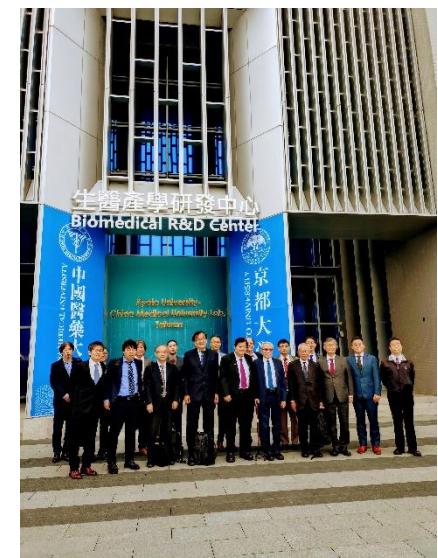
2024年度の主な活動実績

①オンサイトラボ開所記念式典、The 2nd KU-CMU Joint Symposium 2024、部局間学生交流協定の締結(2024年11月19日)

- 2024年11月19日に、湊京都大学総長、Hung 中国医薬大学学長、伊佐京都大学医学研究科長などが登壇して、京都大学・中国医薬大学研究施設のオープニングイベントが開催され、多くの台湾メディアが報道した。
- 続いて、The 2nd KU-CMU Joint Symposiumを開催し、京都大学、中国医薬大学から計23名の研究者が登壇し、最新の研究成果について発表し、活発に討議を行った。
- 教育面では、京都大学と中国医薬大学との部局間学生交流協定を締結し、本施設で学位を取得したい大学院生の募集についての検討を開始した。



オンサイトラボ開所記念式典



シンポジウム会場入口



シンポジウム



実験ゾーン

②その他特筆すべき成果

- 京都大学側が検討してリストアップした必要な研究機器リストに従って、中国医薬大学が機器の購入手続きを進め、本施設のファシリティ整備を進めた。